

富山大学総合研究棟(医学薬学系)完成記念式典

富山大学は、総合研究棟（医学薬学系）完成記念式典を12月16日に開催した。式典には、文部科学省をはじめ、関係者約140名が出席し、新研究棟の完成を祝った。

最初に、村口医学部長から「地域の課題に即した人材育成や社会貢献を積極的に推進するとともに、地域の関係機関等と連携した医薬品・医療技術等の開発や医療水準の向上を目指し、医学・薬学の更なる発展のために、教職員一同、より一層精勤したい」と開会の挨拶があり、続いて遠藤学長からの挨拶があった後、文部科学省高等教育局医学教育課島居剛志課長補佐、富山県山崎康至厚生部長及び富山大学医学部同窓会田淵英一会長から祝辞があった。

記念式典終了後には、熊本大学生命資源研究支援センター山村研一シニア教授を講師に迎え、『病気の遺伝学：モデルマウスを通じた基礎研究，臨床研究から産学連携へ』と題して記念講演会が開催された。

新研究棟は、若手研究者の自立支援スペース及び地域連携活動スペースを確保することで、地域関連企業・地域医療業界との連携による先端医療研究及び医師教育の推進や、企業等との協働の研究開発や臨床試験の推進を図る目的で新築されたもので、鉄骨造5階建て、延べ面積は6,842㎡で、1階は320人収容の多目的ホールや会議室、2階～5階は実験室・競争的研究スペースを設けている。



開会の挨拶を述べる村口医学部長